

中井だより

中井やまゆり園

当事者目線に向けて

地域支援課長 金子 譲

4月より地域支援課長の職に就きました金子と申します。

この間の様々な報道等については、多大なるご心配をおかけしております。

不適切な支援が疑われる事案に関して、今後最終的な検証結果が示されると思いますが、外部調査委員会からは、個々の事案に限らず「利用者本人が望む生活を組み立てていく視点が欠けている」との指摘を受けており、4月より配置された支援改善アドバイザーの方々からたくさんの助言をいただいているところで、改めて神奈川県が謳う「ともに生きる社会」の意味を職員皆が問い直しています。

私自身、県の福祉の職場をずっと経験してきた中、利用者の方々に対して「健常の方との違いに偏見を持たない」「障がい特性に合わせた環境を提供する」「情緒や生活の安定を第一とする」、そうした考え方が基本にあったように思います。

その視点自体が間違っている訳ではないですが、どこかでそれが誤り偏った認識になってしまった部分があり、一般の地域社会と違う環境であることに疑問を持たず、特別な配慮がその方に本当に必要であるのかを見直そうとせず、日々穏やかに暮らすことだけを支援の目標としてしまっていたことに気付かされました。

個性や特性により当事者それぞれの適した形は異なりますが、日々様々な体験をすることが生活を豊かにし、社会とつながることが人の根本的な幸せであるのは、障がいのあるなしに限らず誰もが皆同じであり、園の事情やご本人の安定を理由に、ずっと何年も同じ支援を変えようとせず、それをよしとしてきた職員の意識が問題である、そうした指摘を本当に真摯に受け止めなければいけません。

中井やまゆり園は今、改めて「当事者目線」をキーワードに、大きく変わろうとしています。

園内日中活動の充実や園外事業所の利用促進など、寮内あるいは園内で完結しない日中の活動を提供し、一人ひとりにとってよりよい社会とのつながり方をきちんと考え、進めていく方向に歩みだしました。

もちろん急激な変化により、利用者の方々を混乱させてしまったら本末転倒なので、まさに当事者それぞれの目線に立ち、本当に必要な配慮や環境を整えつつ、より豊かな社会生活を目指します。

中井やまゆり園再生に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。